

2009年度 エコノメトリックスII&上級エコノメトリックスII

第7回宿題解答例

2009年12月4日

Q. 3.12

式(3.42)の第2列目は

$$\begin{aligned}\hat{u}_t &= u_t - \sum_{s=1}^n \mathbf{X}_t(\mathbf{X}'\mathbf{X})^{-1}\mathbf{X}'_s u_s \\ &= u_t - \sum_{s=1}^n \mathbf{x}'_t(\mathbf{X}'\mathbf{X})^{-1}\mathbf{x}_s u_s\end{aligned}\tag{Q3.12-1}$$

である。ここで e_t を t 番目の要素だけ1であとは全て0である n 次元の縦ベクトルとすると、 $\mathbf{X}_t = \mathbf{x}'_t = e'_t \mathbf{X}$ である。

(Q3.12-1)式は

$$\hat{u}_t = (1 - \mathbf{x}'_t(\mathbf{X}'\mathbf{X})^{-1}\mathbf{x}_t)u_t - \sum_{s \neq t} \mathbf{x}'_t(\mathbf{X}'\mathbf{X})^{-1}\mathbf{x}_s u_s\tag{Q3.12-2}$$

の様に、共分散が0である平均0の確率変数の和として書き換えることができる。

(Q3.12-2)式は、射影行列 $P_{\mathbf{X}}$ の全ての要素を用いて表現できる。表記の都合上、 $P_{\mathbf{X}}$ 行列の (t, s) 要素を P_{ts} で表すことにしよう。すると

$$\hat{u}_t = (1 - P_{tt})u_t - \sum_{s \neq t} P_{ts}u_s$$

となる。

\hat{u}_t の分散は、Q3.9の結果より上式の右辺の項の分散の和に等しいので、

$$\text{Var}(\hat{u}_t|\mathbf{X}) = \sigma_0^2((1 - P_{tt})^2 + \sum_{s \neq t} P_{ts}^2) = \sigma_0^2(1 - 2P_{tt} + \sum_{s=1}^n P_{ts}^2)\tag{Q3.12-3}$$

となる。

$P_{\mathbf{X}}$ は直交射影行列であるから、対称かつべき等である。よって

$$\sum_{s=1}^n P_{ts}^2 = \sum_{s=1}^n P_{ts}P_{st} = (P_{\mathbf{X}}^2)_{tt} = P_{tt}$$

である。

この性質より (Q3.12-3) は

$$\text{Var}(\hat{u}_t|\mathbf{X}) = \sigma_0^2(1 - 2P_{tt} + P_{tt}) = \sigma_0^2(1 - P_{tt}) = \sigma_0^2(1 - h_t)\tag{Q3.12-4}$$

と簡単に表すことができ、問いの証明となる。

Q. 3.19

$\hat{\beta}$, $\tilde{\beta}$ は Q.3.15 で与えられているから、

$$\tilde{\beta} - \hat{\beta} = (X' M_Z X)^{-1} X' M_Z y - (X' X)^{-1} X' y$$

上式に左から $X' M_Z X$ を掛けると

$$\begin{aligned} X' M_Z X (\tilde{\beta} - \hat{\beta}) &= X' M_Z y - X' M_Z X (X' X)^{-1} X' y \\ &= X' M_Z y - X' M_Z P_X y \\ &= X' M_Z (I - P_X) y \\ &= X' M_Z M_X y \end{aligned}$$

この式に左から $(X' M_Z X)^{-1}$ を掛けると

$$\tilde{\beta} - \hat{\beta} = (X' M_Z X)^{-1} X' M_Z M_X y$$

が得られる。QED